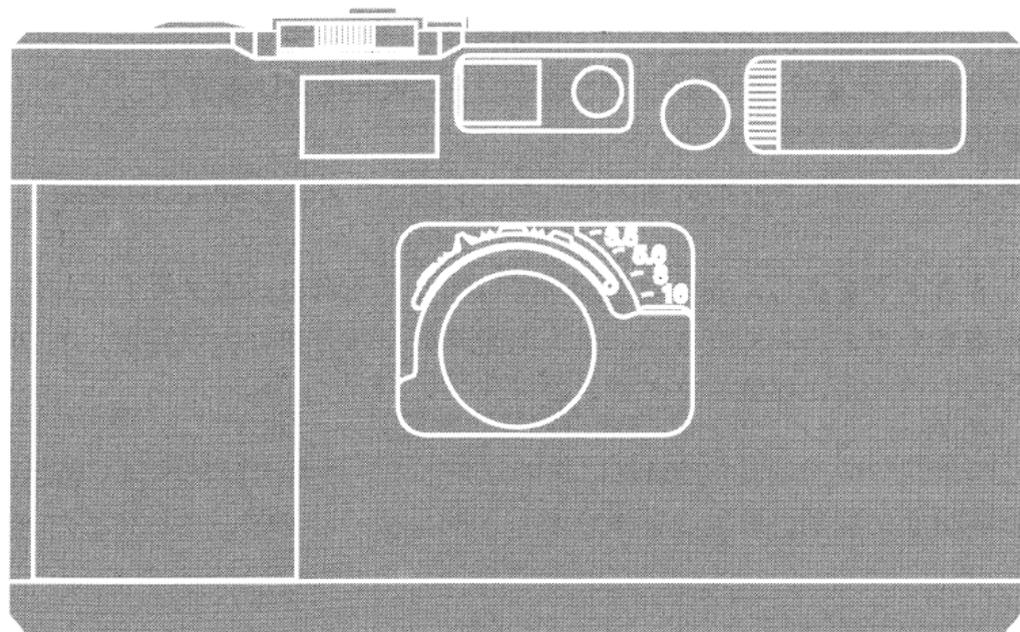
MINOLTA

TC-1

使用説明書

ご使用前に、
必ずお読みください。

お買い上げありがとうございます。

ミノルタTC-1は、ミノルタの光学技術を結集したGロッコール28mmレンズを搭載し、単焦点レンズ付き一眼レフと同等以上のきれの良い画質を、名刺サイズのコンパクトなボディで実現する35mm絞り優先AEの超小型オートフォーカスカメラです。

本機の特長

●いつでも気軽に持ち運べる超小型ボディ
●単焦点レンズ付き一眼レフと同等以上のきれの良い画質
●高級感のあるチタンカバーボディ
●スナップ撮影から撮影意図を活かした撮影まで楽しめる最新機能

このカメラを正しく安全に活用していただくために、カメラをご使用になる前にこの使用説明書を必ずお読みください。またお読みになった後は、保証書、アフターサービスのご案内とともに大切に保管してください。

この使用説明書は1996年4月に作成しました。本書の記載内容や製品に対してのご質問は、本書裏面に記載の弊社フォトサポートセンターにお問い合わせください。

目次

正しく安全にお使いいただくために

●絵表示について

この使用説明書及び製品への表示には、正しく安全に製品をお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示を使用しています。絵表示の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

	警告	この表示を無視した取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	注意	この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。
△の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⊘記号は、行為を禁止する内容を告げるものです。
の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

⚠ 警告

火傷の恐れがあります。フラッシュ発光のとき、発光部が大変熱くなります。発光部に皮膚や物を密着させた状態で、発光させないでください。

失明の恐れがあります。ファインダーを通して直接太陽を見ないでください。

火災の恐れがあります。直射日光の当たる場所に放置しないでください。
太陽光が近くの物に結像すると、火災の原因となります。

⚠ 注意

●けがの恐れがあります。ファインダーをのぞきながら歩かないでください。つまづいたり、転倒するなどけがの原因となります。

●一時的な視力低下の恐れがあります。人や動物の目に近づけてフラッシュを発光させないでください。特に乳幼児の撮影は、フラッシュの最短撮影距離以上離れて行なってください。

感電の恐れがあります。
●落としたり、損傷させて内部が露出した場合は、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。また内部を手で触れないでください。
●分解しないでください。
修理や分解が必要な場合は、サービスセンター・サービスステーションに依頼してください。内部の高圧回路に触れると、感電の原因となります。

電池に関する警告

破裂の恐れがあります。電池上の注意書きを守ってください。
電池の注意書きを無視して使用すると爆発の原因となります。

電池の液漏れ・発熱・破裂の恐れがあります。
次のことは絶対にしないでください。
●電池の極性（＋、－）を逆にいれる。
●表面の皮膜の破れた電池を使用する。
●火中への投入や、充電、ショート、分解、加熱。

ご自分で判断のできない方、児童の近くでご使用になる場合は以下の点にもご注意ください。

警告

●目の前でフラッシュが発光し、一時的な視力低下を起こす
●モーターが作動して指を巻き込む
●ストラップが首に巻付く
などの事故の恐れがあります。
ご自分で判断のできない方、児童の近くでご使用になる場合は、綿密に管理してください。また製品および付属品は幼児・児童の手の届かないところに保管してください。

注意

幼児が飲み込む恐れがあります。
幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。
万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。

幼児が飲み込む恐れがあります。
電池は幼児の手の届かないところに保管してください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

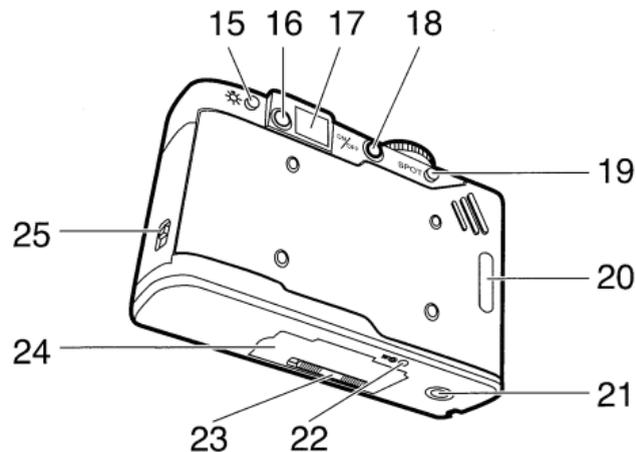
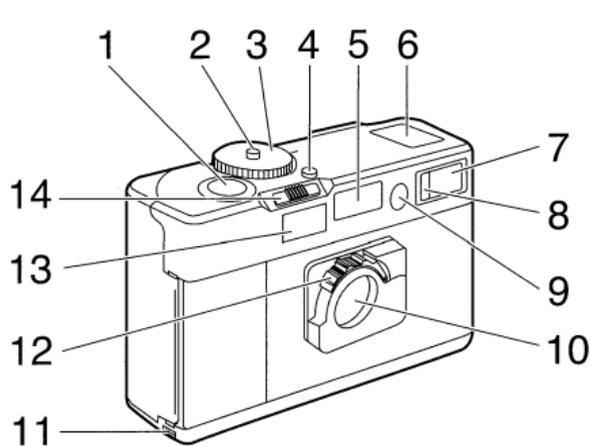
その他の注意

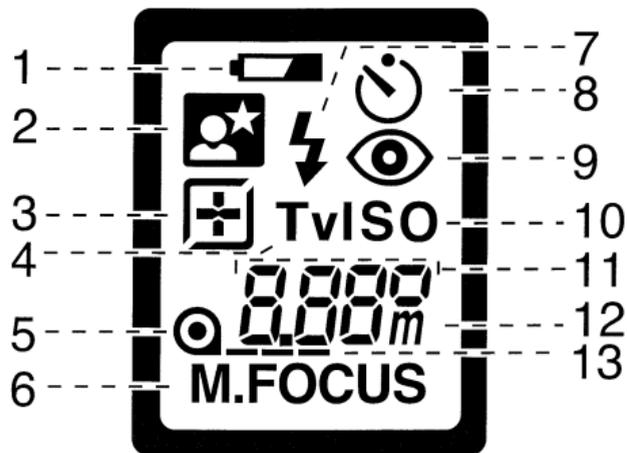
使用温度について

●このカメラの使用温度範囲は-10〜40℃です。
●直射日光下の車の中など、極度の高温下にカメラを放置しないでください。
●ボディ表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温にもどせば正常に作動します。
●湿度の高いところにカメラを放置しないでください。
●カメラに急激な温度変化を与えると内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋に入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度になじませてからカメラを取り出してください。
●電池の性能は、低温下では低下します。寒いところでご使用になるときは、カメラを保温しながら撮影してください。海外旅行や寒いところでは、予備の電池を用意されることをおすすめします。なお、低温のために性能が低下した電池でも常温に戻せば、性能は回復します。

取り扱いについて

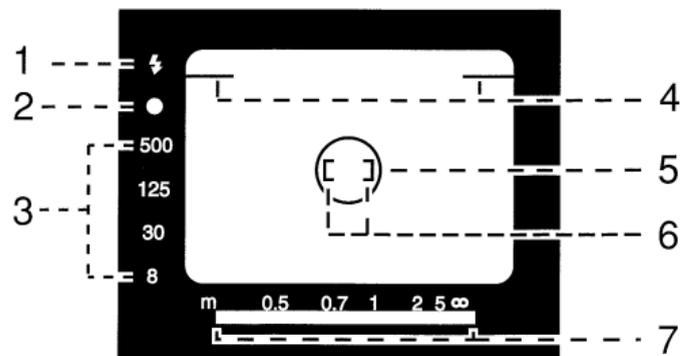
●このカメラは防水構造ではありません。海辺で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。
●電池容量が十分あるのにカメラが動かなくなったとき、または液晶表示部の表示がすべて点滅したときは、電池を一度取り出し、入れ直してください。それでも直らない場合、また何度も繰り返して同じ状態になるときは、お近くの当社サービスセンターまたはサービスステーションにお問い合わせください。

各部の名称 ボディ ＊印のところは、触らないでください。

1 シャッターボタン
2 ロック解除ボタン
3 機能選択ダイヤル
4 ＡＦリセットボタン
5 ファインダー対物／測光窓*
6 ボディ表示部
7 フラッシュ
8 赤目軽減ランプ／セルフタイマーランプ
9 ＡＦ補助光発光部
10 レンズ*
11 ストラップ取り付け部
12 絞りレバー
13 測距窓*
14 機能設定レバー
15 ボディ表示部照明ボタン
16 視度調整ダイヤル
17 ファインダー接眼窓*
18 メインスイッチ
19 スポット測光ボタン
20 フイルム確認窓
21 三脚ネジ穴
22 途中巻き戻しボタン
23 電池室開閉レバー
24 電池室
25 裏蓋開放つまみ

各部の名称　ボディ表示部

1 バッテリー警告表示
2 夜景ポートレートマーク
3 露出補正表示
4 シャッター速度マーク
5 パトローネマーク
6 マニュアルフォーカス表示
7 フラッシュモードマーク
8 セルフタイマーマーク
9 赤目軽減表示
10 フイルム感度マーク
11 シャッター速度／撮影距離／フイルム感度／露出補正値／セルフタイマー秒時／フイルムカウンター表示
12 撮影距離マーク
13 フイルムマーク

各部の名称 ファインダー

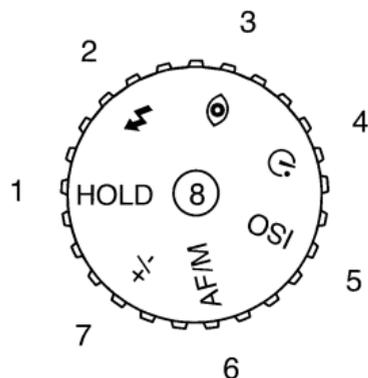
1 フラッシュ表示
点灯：フラッシュ充電完了
点滅：フラッシュ充電中

2 フォーカス表示
点灯：AF、AEともロック
速い点滅(8Hz)：近距離警告(レリーズロック)
遅い点滅(2Hz)：測距不能

3 シャッター速度表示

表示	シャッター速度
500の遅い点滅(2Hz)	1/750〜1/350秒 (超自動露出領域)
500と125の点灯	1/350〜1/180秒
125の点灯	1/180〜1/90秒
125と30の点灯	1/90〜1/45秒
30の点灯	1/45〜1/20秒
30と8の点灯	1/20〜1/10秒
8の点灯	1/10〜1/6秒
8の遅い点滅(2Hz)	1/6〜8秒

シャッター速度の速い点滅（8Hz）は、測光または制御連動外ですので、適正露出は得られません。

4 近距離補正マーク
5 スポット測光サークル
6 フォーカスフレーム
7 フォーカスインジケーター

機能選択ダイヤルの働き

1　HOLD　ホールド

次の6つの機能の設定を保持します。

ダイヤルがHOLD以外の他の位置にあっても撮影はできますが、この位置ではダイヤルにロックがかかり、不用意な設定の変更を防ぐことができるため、通常はこの位置で撮影されることをお薦めします。（AFリセットボタンはダイヤルの位置に関係なく働きます。）

2　ϟ　フラッシュモード

フラッシュモードは、発光禁止、強制発光、夜景ポートレートの3つのモードから選ぶことができます。低輝度、逆光時の自動発光はありません。3つのモードとも撮影後も設定は保持されます。

3　◎　赤目軽減機能

赤目軽減機能の有り／無しを選ぶことができます。有りにした場合、フラッシュ発光時に内蔵フラッシュ横のランプが撮影寸前に数回発光します。撮影後も設定は保持されます。

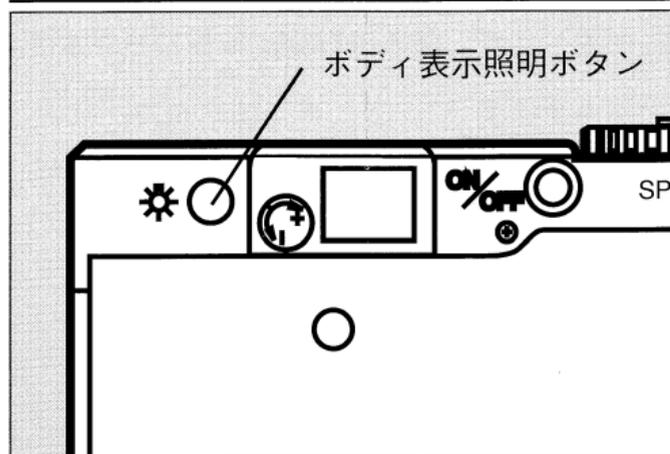
4　🕓　セルフタイマー
10秒セルフタイマー、2秒セルフタイマー、ＯＦＦが選べます。撮影後も設定は保持されます。

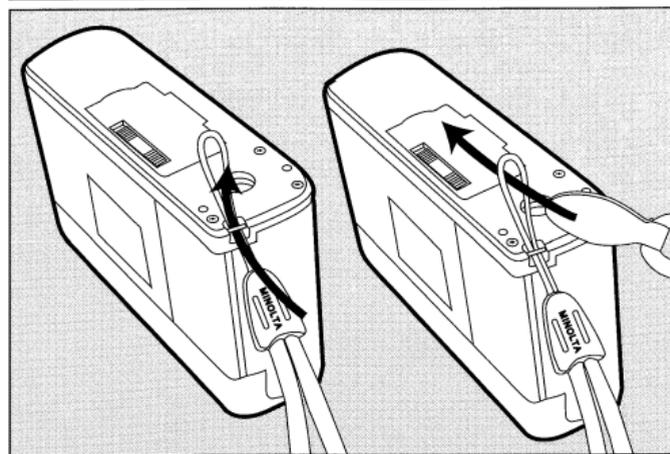
5　ISO　フイルム感度
通常、フイルム感度の設定は、DXコードを読みとり自動設定します。しかし、フイルムの乳剤や、露出の好みに合わせてフイルム感度を使って露出を補正する場合に、この機能を使ってフイルム感度を設定します。設定できる範囲はISO6〜6400、1/3段毎です。

6　AF/M　AF/M切り替え
オートフォーカス、マニュアルフォーカスを切り替えることができます。
またマニュアルフォーカスでの距離も設定することができます。撮影後も設定は保持されます。

7　＋／－　露出補正
±4EV，0.5EVステップの露出補正が設定できます。撮影後も設定は保持されます。

8　ロック解除ボタン
ダイヤルはHOLD位置から他の位置に回転させる際にこのボタンを押しながら回転させます。

ボディ表示部の照明

夜間の撮影など、暗くてボディ表示が見えない場合、ボディ表示部照明ボタンを押すと、約5秒間表示部が照明されます。また表示部が照明されている間に、他の操作を行うと照明時間が延長されます。

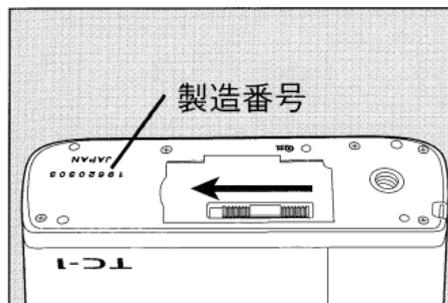
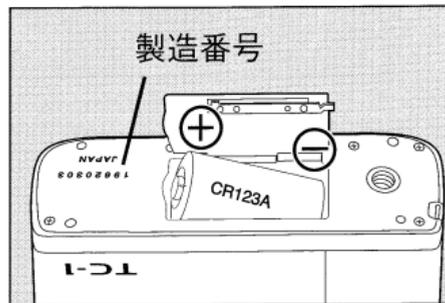
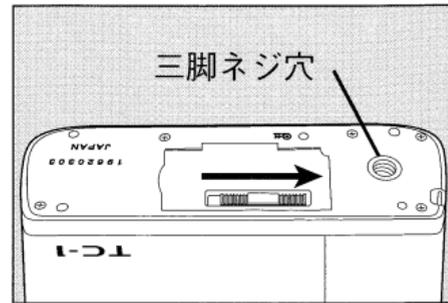
ストラップの取り付け

ストラップの小さい方の輪をストラップ取り付け部に通します。
次に大きい方の輪をタグから通します。

撮影準備

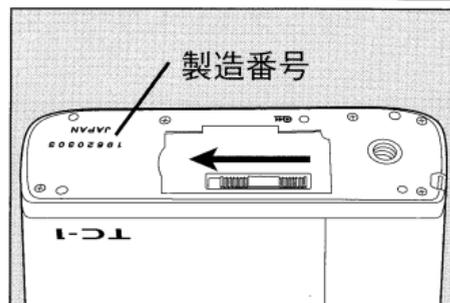
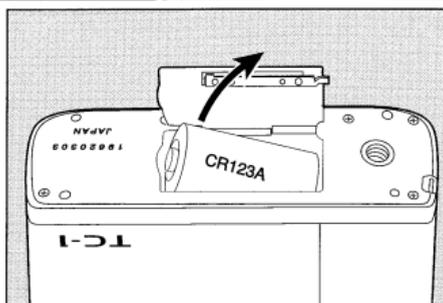
ここでは撮影に入る前の準備について説明しています。

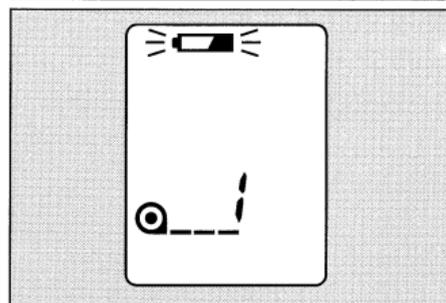
電池を入れます

使用する電池は、リチウム電池ＣＲ１２３ＡまたはＤＬ１２３Ａ１個です。

電池の挿入

1．電池室開閉レバーを製造番号の書いてある方向にスライドさせ、電池室を開きます。

2．電池の＋極が製造番号の方を向くようにして、ー極の側から先に挿入します。

3．蓋を閉め、電池室開閉レバーを三脚ネジ穴の方向にスライドさせます。

電池室開閉レバーを、三脚ネジ穴の方向にスライドさせたまま蓋を閉めると、ロック用のレバーが破損する恐れがありますので、ご注意ください。

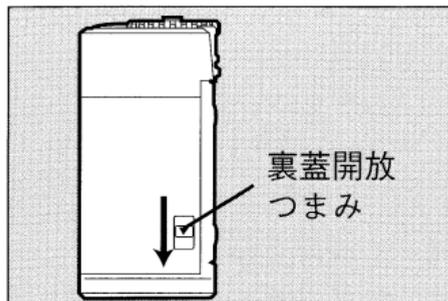
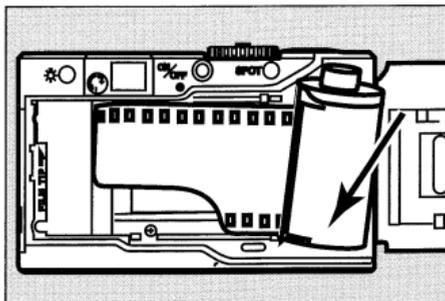
電池を取り出します

1．電池室開閉レバーを製造番号の書いてある方向にスライドさせ、電池室を開きます。

2．電池を十極の側から先に取り出します。

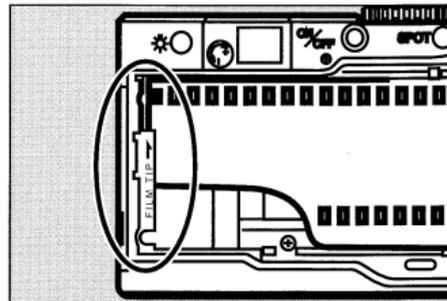
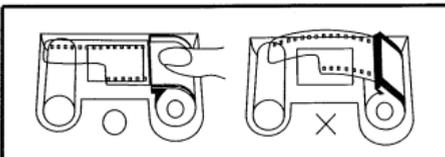
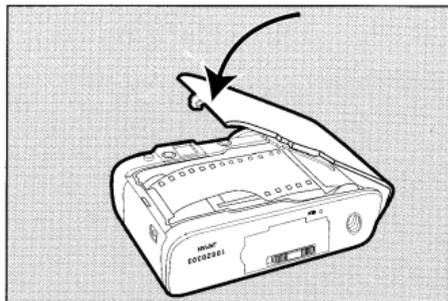
電池の警告

電池の容量が低下すると、

が点滅してお知らせします。このままでもしばらくは撮影できますが、新しい電池をご用意ください。

が点滅し、他の表示がすべて消え、カメラが動作しなくなったら、電池容量がありません。すみやかに新しい電池と交換してください。

フイルムを入れます

使用できるフイルムはパトローネ入り１３５フイルムです。ポラロイドインスタントリバーサルフイルム、赤外線フイルムは使用できません。

１．裏蓋開放つまみを押し下げ、裏蓋を開きます。

２．フイルムを図のように下側から先に入れます。

●フイルムの上側は、カチッという音が鳴るまで押し込んでください。

３．フイルムの先端を、図のようにFILM TIP→の位置に合わせます。

●フイルムが浮き上がらないようにパトローネを押さえてください。

4．裏蓋を閉じます。

●フイルムが１コマ目まで送られます。

○フイルムが正しく入ったときは...

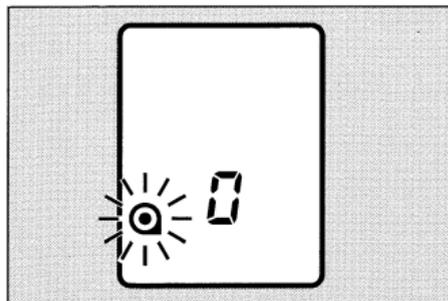
フイルムカウンターに ◎_1 が表示されると、フイルムを正しく挿入できています。

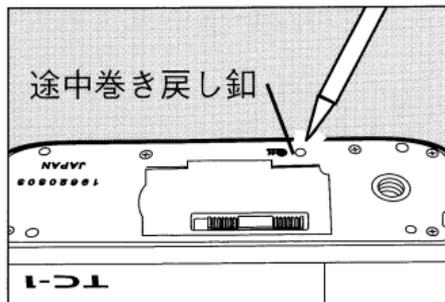
×フイルムが正しく入っていないときは...

_0 表示が点滅するとフイルムが正しく装填されていません。

この場合は、裏蓋を開き３、４の操作をやり直してください。

メインスイッチがＯＦＦの状態でフイルム装填に失敗すると、裏蓋を開けたときに、レンズカバーが開閉しますが、これは故障ではありません。レンズカバーの開閉を妨げないようにしてください。

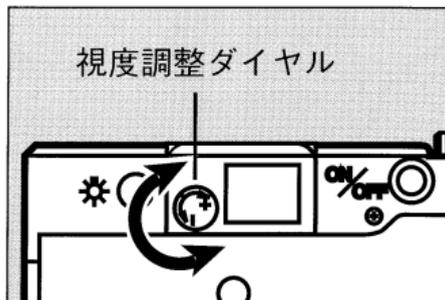
フイルムを巻き戻します

フイルムの最後のコマの撮影が終わると、自動的に巻き戻しが始まります。

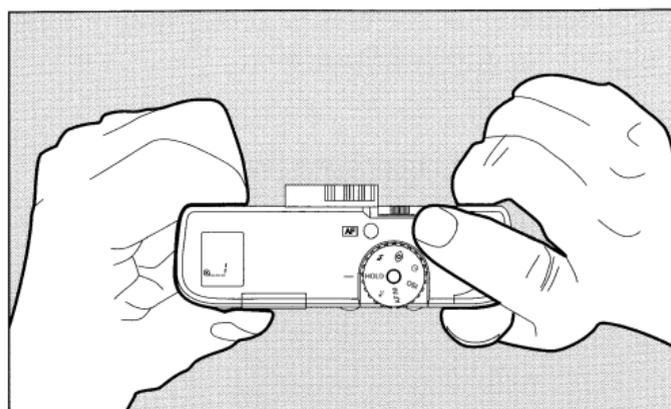
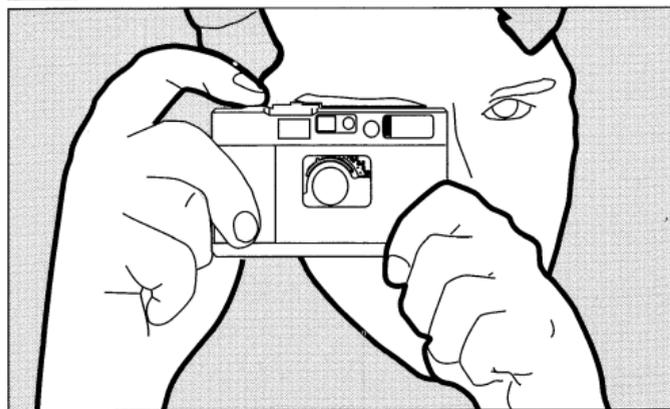
ボディ表示に◎の点滅と0が表示されると、巻き戻しが終了です。裏蓋を開いてフイルムを取り出してください。

最後まで撮影していないフイルムを巻き戻すときは、カメラ底面の途中巻き戻しボタンを、ボールペンの先などで押してください。巻き戻しが始まります。ボディ表示部に

◎の点滅と0が表示されると、巻き戻しが終了しましたので、裏蓋を開いてフイルムを取り出してください。

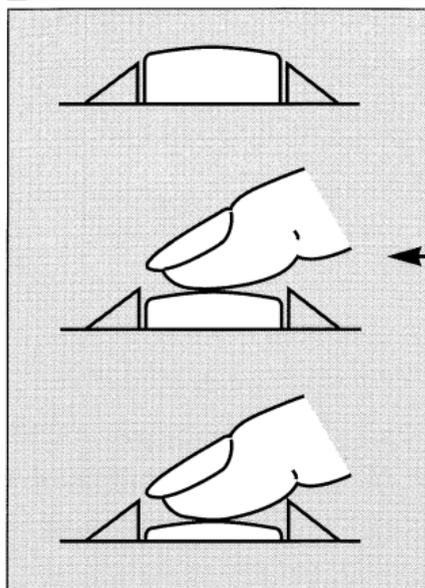
視度を調整します

視度調整をすると、軽度の近視・遠視・老眼であれば、眼鏡をかけなくてもファインダー像を鮮明に見ることができます。
視度の調整幅は−2.5〜+1.0ディオプトリーです。

1．ファインダーをのぞき、明るいところを見ます。

2．フォーカスフレームがはっきり見えるように、視度調整ダイヤルを回して調整します。

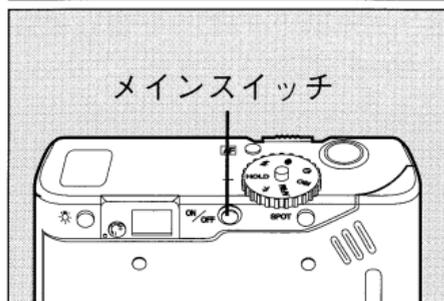
カメラの構え方

このカメラは、小さなボディに、28mm広角レンズを搭載しています。
したがって、カメラの構え方に注意しないと指が写り込んだり、フラッシュ光を遮ったりする場合があります。
カメラを構えるときは、レンズ鏡胴部分から1cmぐらい指が離れるようにしてください。また、カメラを持った指ができるだけ、カメラボディに沿うようにしてください。指が前に出るとそれだけ、写り込みやすくなります。

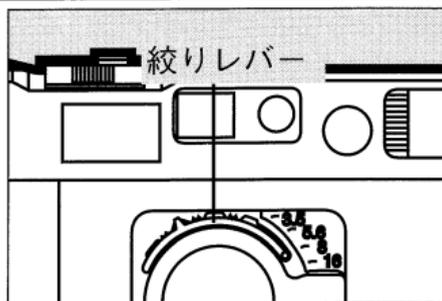
シャッターボタン

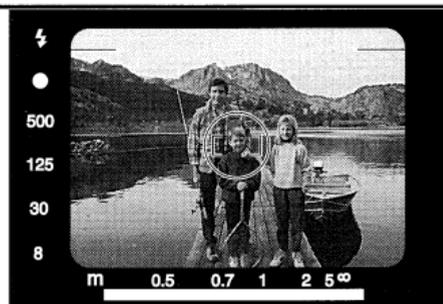
断面図

シャッターボタンは2重スイッチになっています。
シャッターボタンをゆっくり押し込んでいくと、重さが変わるところがあります。ここまで押し込むことをこの使用説明書では「半押し」と呼んでいます。この状態では、「シュッ」という音を伴って鏡胴が繰り出し、測光とピント合わせが行われ、各々の値が表示されるとともに、ロックします。
さらにシャッターボタンを押し込むと、止まるところがあります。この位置で撮影が行われます。

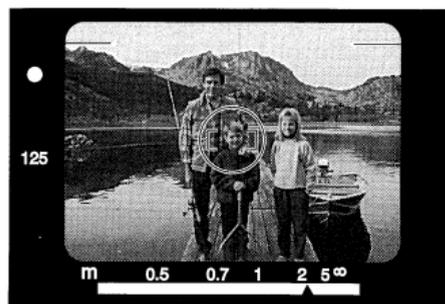
撮影

ここでは撮影方法や各種機能の設定について説明しています。

撮影します

1．メインスイッチを押して、ONにします。

●レンズカバーが開き、レンズ鏡胴が出てきますので、動きを妨げないようにしてください。

2．絞りを合わせます。

●絞りレバーがレンズの各クリック位置に止まっていない状態でシャッターボタンを押すと、ボディ表示部にF−−と表示され、シャッターも切れません。

3．被写体にフォーカスフレームが重なるように、カメラを構えます。

本機はメインスイッチがONの状態で約3分間操作しないと、節電のため自動的に電源が切れます。

4．シャッターボタンをゆっくりと押し込みます。

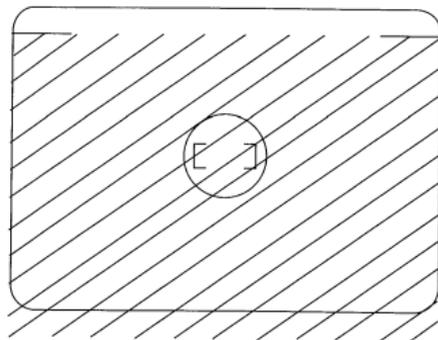
●半押しの状態になると、撮影距離、シャッター速度、フォーカス表示が表示されます。

●撮影距離が近すぎると、フォーカス表示がすばやく点滅(8Hz)してお知らせします。シャッターは切れません。

●フォーカス表示が点滅した場合、被写体へのピント合わせはできません。ピントは自動的に10mに設定されます。

●フラッシュは自動発光ではありません。必要な場合は27ページの手順に従ってフラッシュをONにしてください。

●被写体の輝度が高く、設定した絞りでは露出オーバーになる場合、自動的に絞りが絞り込まれ適正露出になるように制御されます（高輝度側超自動露出、44ページ参照）。

●このカメラの最短撮影距離は45cmです。撮影距離が1.3m未満の場合は、近距離補正マークの下（下図の斜線部分）が写ります。カメラを少し上にずらして撮影してください。

フォーカスロック

被写体が中央にない場合や、ピント位置が画面中央でない場合はフォーカスロックしてください。

1．ピントを合わせたいところに、フォーカスフレームを重ねます。

2．シャッターボタンを半押しします。

●ピントと露出が固定され、表示されます（フォーカスインジケーター指標も止まります）ので、確認してください。

3．シャッターボタンを半押ししたまま、フレーミングします。

●ピントとともに露出も固定されます。

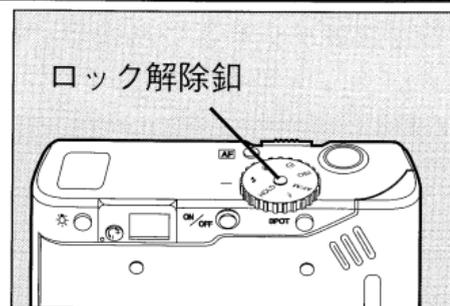
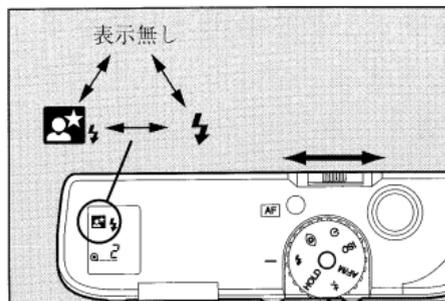
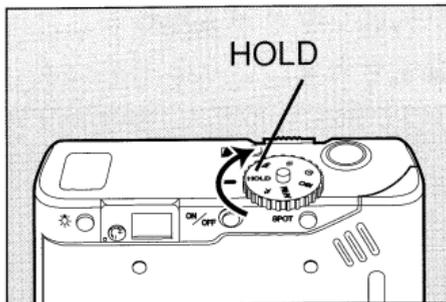
4．シャッターボタンを押し込んで撮影します。

フラッシュモードの設定

本機のフラッシュは、ガイドナンバー7(ISO100)です。
フラッシュモードは、強制発光、発光禁止、夜景ポートレートの3種類です。

⚡ 強制発光：撮影の度にフラッシュが発光します。
発光禁止（表示無し）：フラッシュは発光しません。

夜景ポートレート：低輝度時はスローシンクロ撮影、高輝度時は日中シンクロ撮影になります。

フラッシュ撮影では、絞りをF3.5に設定してください。 シーンによっては露出アンダーになることがあります。

1. ロック解除ボタンを押しながら、機能選択ダイヤルの ⚡ マークを指標に合わせます。

2．機能設定レバーをスライドさせ、発光禁止（表示無し）、強制発光 ϟ 、夜景ポートレート + ϟ のいずれかのモードのマークを液晶表示部に表示させます。

3．機能選択ダイヤルのHOLDマークを指標に合わせます。

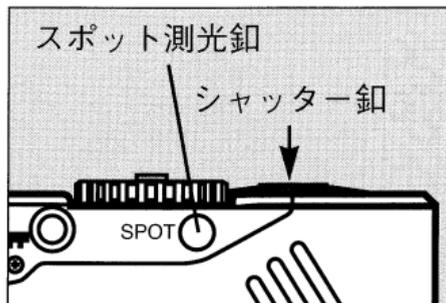
●ダイヤルが ϟ マークの位置にあっても撮影することができますので、すぐにモードを変更する場合は、HOLD位置に戻す必要はありません。

●フラッシュの充電中は、シャッターは切れません。ファインダー内の ϟ マークが点滅し充電中であることをお知らせします。点滅が点灯に変わると、充電完了です。

●夜景ポートレートモードではシャッター速度が遅くなります（最長2秒）ので三脚の使用をお勧めします。

●フラッシュ撮影で、シャッターボタンを半押ししたときにフォーカス表示が点滅した場合、ピントは1.8mに固定されます。

夜景ポートレート撮影

フラッシュが強制発光モードであれば、ダイヤル操作なしに、スポット測光ボタンを使って夜景ポートレート撮影することができます。

●オートフォーカスは、2.8mまでに制限されます。

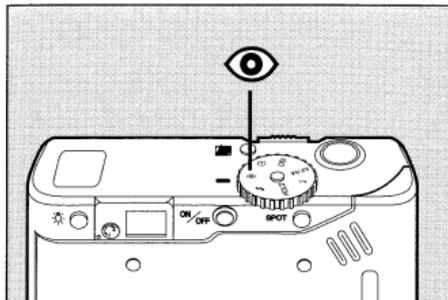
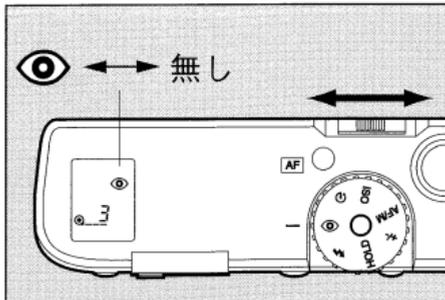
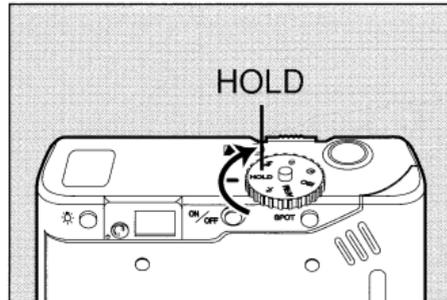
1. カメラを構えます。

●三脚などに固定することをお勧めします。

2. スポット測光ボタンを押しながら、撮影します。

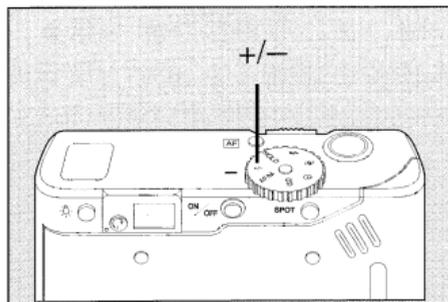
●最長シャッター速度は、2秒です。

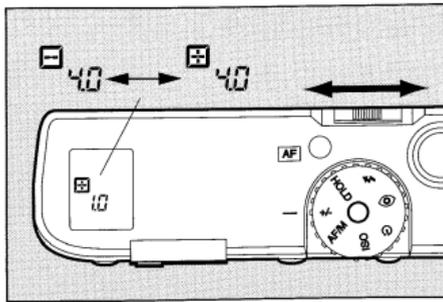
赤目軽減フラッシュ

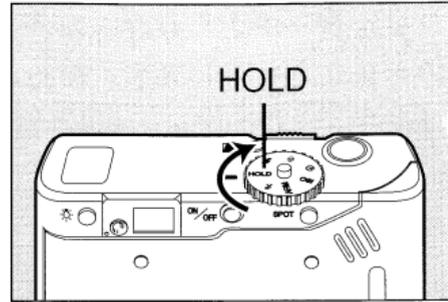
シャッターが切れる前にカメラ前面の赤目軽減ランプが点灯し、暗いところで目が赤く写るのを目立たなくします。またこの機能はフラッシュモードが発光禁止では働きません。

1．ロック解除ボタンを押しながら、機能選択ダイヤルの◉マークを指標に合わせます。

2．機能設定レバーをスライドさせ、◉のマークを液晶表示部に表示させます。

3．機能選択ダイヤルのHOLDマークを指標に合わせます。

●ダイヤルが◉マークの位置にあっても撮影することができますので、すぐにモードを変更する場合は、HOLD位置に戻す必要はありません。

この機能を使うと、シャッターボタンを押し込んでからシャッターが切れるまで、数秒のタイムラグが生じます。人物撮影の場合は、写る人に注意を促してください。

露出補正

1．ロック解除ボタンを押しながら、機能選択ダイヤルの＋/－マークを指標に合わせます。

●露出補正の範囲は、＋4EV～－4EV、0.5段ごとです。

2．機能設定レバーをスライドさせ、露出補正量を液晶表示部に表示させます。

●機能設定レバーをシャッターボタン側にスライドさせると＋側に、AFボタン側だと－側に補正がかかります。

3．機能選択ダイヤルのHOLDマークを指標に合わせます。

●ダイヤルが＋/－マークの位置にあっても撮影することができますので、すぐにモードを変更する場合は、HOLD位置に戻す必要はありません。

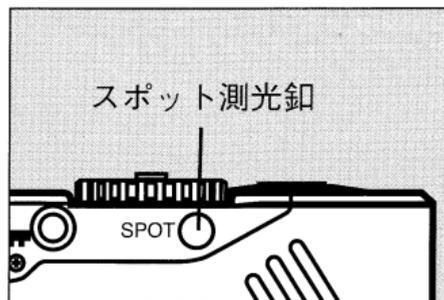
フラッシュ撮影時の露出補正

フラッシュ撮影（夜景ポートレートを含む）のときに、露出補正をすると、定常光は補正されますが、フラッシュ光は補正されません。

定常光・フラッシュ光ともに補正をしたい場合は、ISO感度を変更して補正してください（39ページ参照）。

定常光とは、常に被写体を照射している光のことです。日中の太陽光や、室内の蛍光灯、また夜景ポートレート時の背景の夜景なども定常光です。

スポット測光

ファインダー中央のスポット測光サークルの範囲のみを測光します。スポットボタンを押している間測光値は固定されます。

1．測光したい部分がスポット測光サークルに重なるようにカメラを構えます。

2．スポット測光ボタンを押します。

3．スポットボタンを押したまま、フレーミングします。

4．シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。

フラッシュがON状態のときにスポット測光を使用すると、低輝度時はスローシンクロ撮影、日中の逆光時は日中シンクロ撮影になります。

スポット測光ボタンのモード切り替え

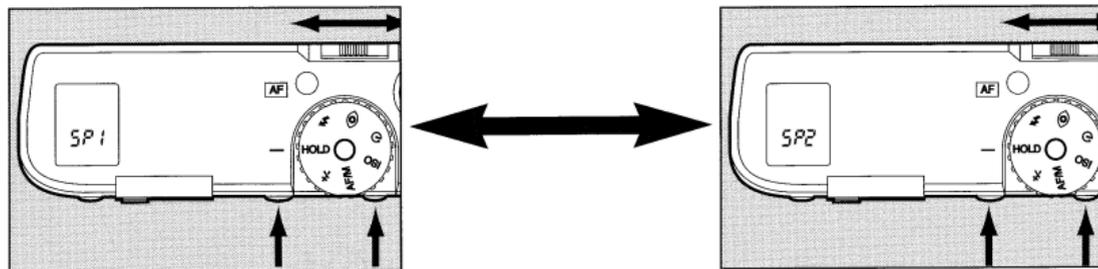
スポット測光ボタンには、次の2つのモードがあります。

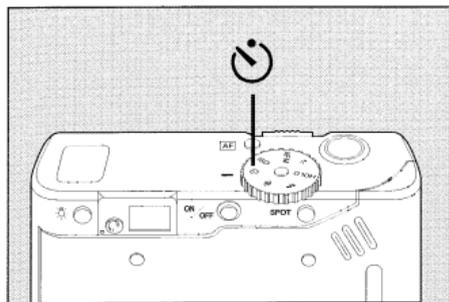
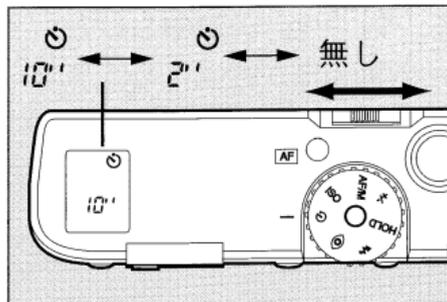
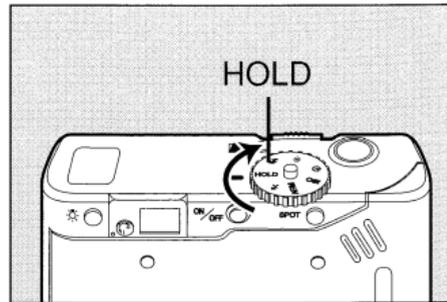
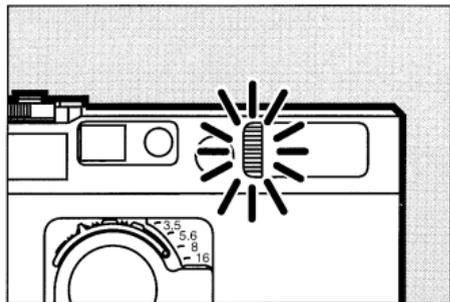
SP-1：ボタンを押している間、スポット測光値が固定された状態になります。工場出荷時はこのモードになっています。前ページの説明もこのモードを基準にしています。

SP-2：一度ボタンを押すとスポット測光値が固定されます。このモードだと、前ページの手順3でボタンを押し続ける必要はありません。再度ボタンを押すかシャッターを切ると、測光値は解除されます。

モードの切り替え方

スポット測光ボタンを押しながらメインスイッチを押し、そのままの状態で機能設定レバーをスライドさせ、液晶表示部の「SP1」と「SP2」を切り替えます。

●スポット測光ボタンとメインスイッチを押し続けている間、液晶表示部にモードが表示されます。

セルフタイマー

セルフタイマーは10秒と2秒を選ぶことができます。特に２秒はリモートレリーズの代わりとして使用すると便利です。

1. ロック解除ボタンを押しながら、機能選択ダイヤルの⏲マークを指標に合わせます。

2. 機能設定レバーをスライドさせ、
10秒の場合は⏲と10"、
２秒の場合は⏲と2"を
液晶表示部に表示させます。

3. 機能選択ダイヤルのHOLDマークを指標に合わせます。

4．シャッターボタンを押すとセルフタイマーがスタートします。

●セルフタイマーがスタートすると、赤目軽減／セルフタイマーランプが点滅してお知らせします。

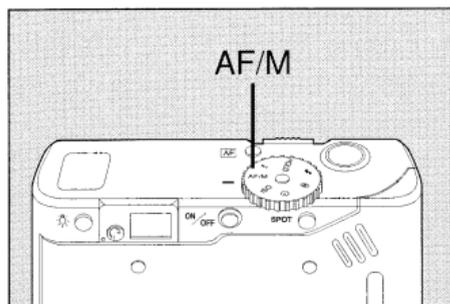
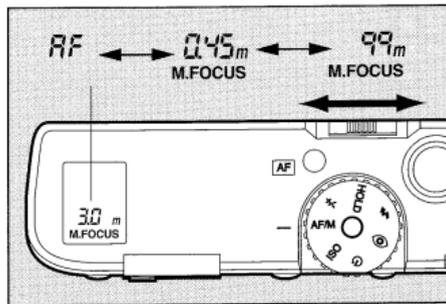
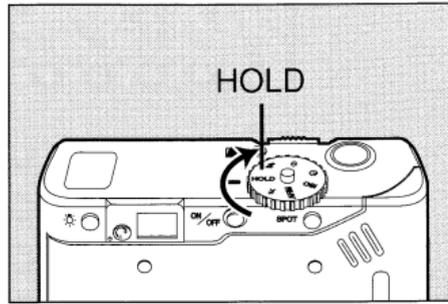
●ダイヤルが🕓マークの位置にあっても撮影することができますので、すぐにモードを変更する場合は、HOLD位置に戻す必要はありません。

●セルフタイマーは、撮影後も設定が保持されます。

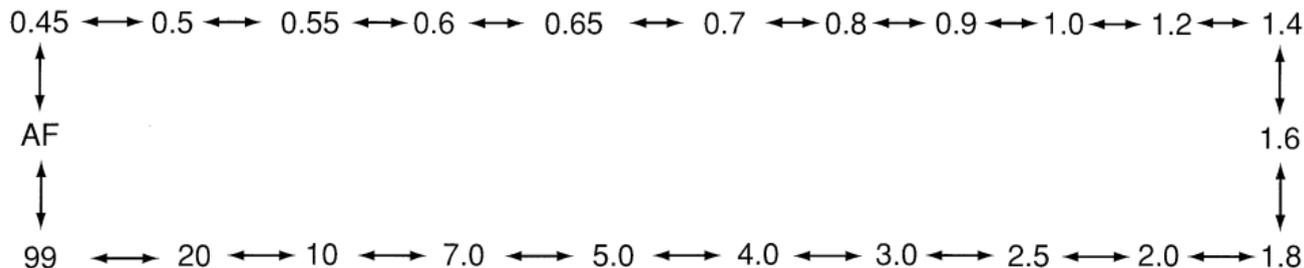
セルフタイマーの途中解除

シャッターボタンを押した後のセルフタイマーを途中解除するには、メインスイッチをOFFにしてください。
再度メインスイッチをONにしたとき、セルフタイマーの設定は保持されています。

マニュアルフォーカス

置きピン撮影などをする場合にマニュアルフォーカスをすることができます。
マニュアルで設定できるピント位置は22段階あります。

1．ロック解除ボタンを押しながら、機能選択ダイヤルのAF/Mマークを指標に合わせます。

2．機能設定レバーをスライドさせ、撮影距離を液晶表示部に表示させます。

3．機能選択ダイヤルのHOLDマークを指標に合わせます。

●ダイヤルがAF/Mの位置にあっても撮影することができますので、すぐにモードを変更する場合は、HOLD位置に戻す必要はありません。

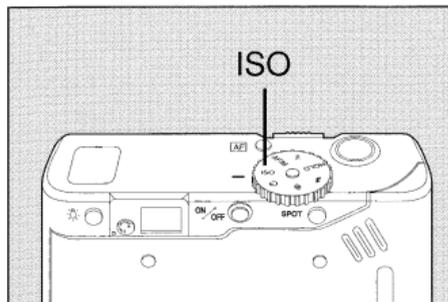
●設定できる距離は次の通りです。距離はいずれもm単位で表示されます。

●99mは無限遠を示しています。

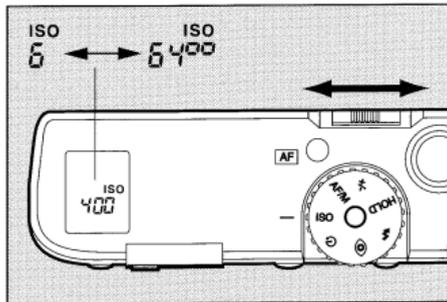
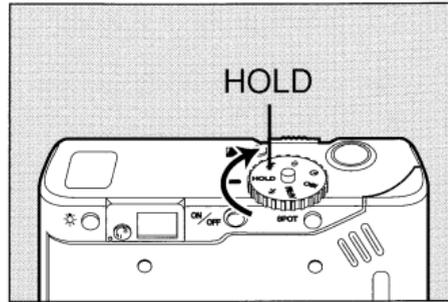
●AFリセットボタンを押すとどの数値からでもAFに瞬時に戻すことができます。

●設定できる距離が実際の撮影距離と異なる場合は、一番近い小さい方の数字を選んでください。焦点距離が28mmと広角なレンズのため、被写界深度内に被写体を入れることができます。

●メジャーなどで、正確な撮影距離を測る場合は、カメラ上面の後端から計ってください。

ISO感度設定

DXコード付きフイルムをお使いの場合は、ISO感度を設定する必要はありません。フイルムの特性に合わせてISO感度を変更する場合は、この説明に従って行ってください。

1．ロック解除ボタンを押しながら、機能選択ダイヤルのISOマークを指標に合わせます。

●ISO感度設定は、フイルムが入った状態で行ってください。

2．機能設定レバーをスライドさせ、希望の感度をボディ表示部に表示させます。

3．機能選択ダイヤルのHOLDマークを指標に合わせます。

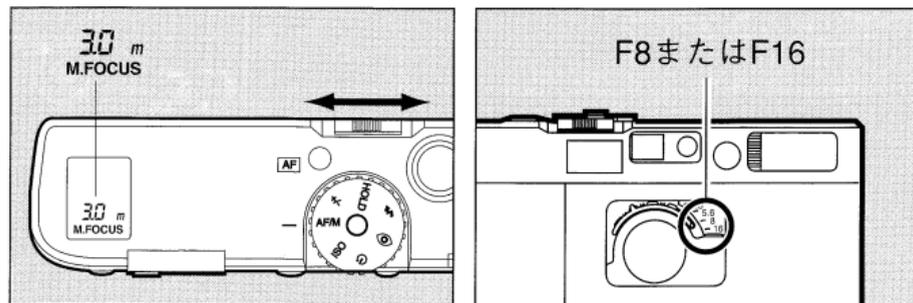
●設定された感度は、新しいフイルムを入れるか、再度設定するまで持されます。

●DXコードのないフイルムを入れた場合は、ISO100に設定されます。

その他

ここでは本機の予備知識について説明しています。

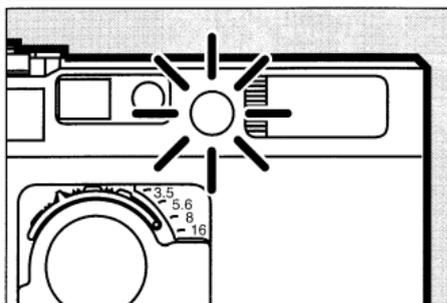
パンフォーカス撮影

写真の中の１点だけにピントを合わせるのでなく、写真の近景から遠景までピントのあった状態をパンフォーカスと呼びます。本機では絞りとマニュアルフォーカスをうまく使うと、パンフォーカスの写真を撮ることができます。

１．マニュアルフォーカスで撮影距離を3.0mに設定します。

２．絞りをF8またはF16に設定します。

３．撮影します。

被写体が暗い場合（フラッシュ撮影）では、パンフォーカスになりません。
被写体の明るさによっては、シャッター速度が遅くなりカメラブレを起こす場合があります。

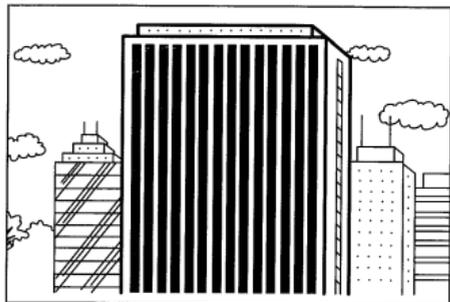
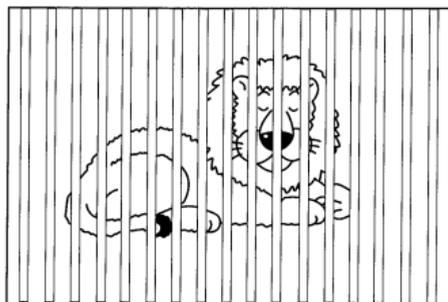
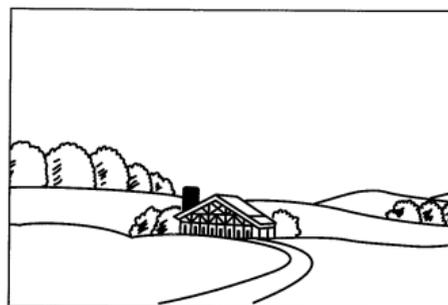
AF補助光

本機のオートフォーカスは、被写体の明暗差を検出してピント合わせをします。

しかし、被写体が暗い場合は明暗を判別できません。このような場合に、AF補助光が発光して、被写体を照射し、ピント合わせができるようにします。

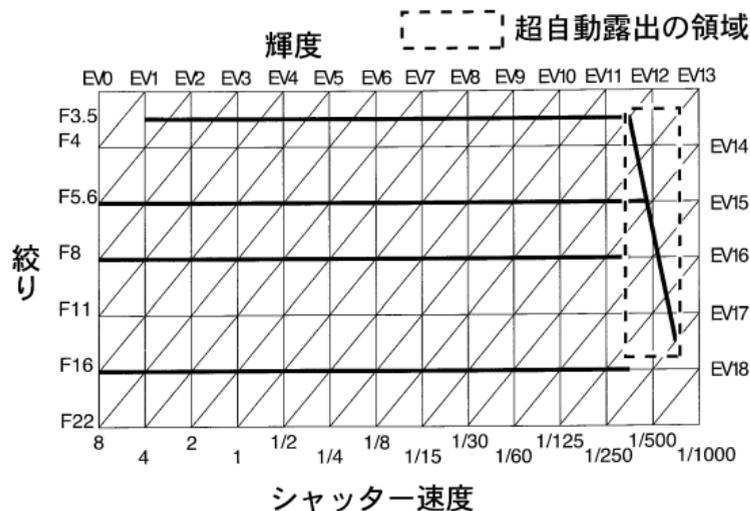
●AF補助光発光部を覆わないように注意してください。

●AF補助光の到達距離は2.8mです。

AFの苦手な被写体

フォーカス表示が遅く(2Hz)点滅する場合、被写体が原因になっている場合があります。以下のような被写体を撮影する場合は、37ページのマニュアルフォーカスで撮影距離を設定するか、26ページのフォーカスロックで同等の距離にあるものにピントを合わせて撮影してください。

ビルや壁など繰り返しパターンが連続している被写体

檻の中の動物など、フォーカスフレームの中で距離の違うものがある被写体

青空や模様のない壁など、明暗差のない被写体
または太陽や照明など非常に明るい被写体

高輝度側超自動露出

本機は、シャッターの直前に完全円形の絞り板を配置し、絞り優先AEを採用することで、作画意図に合わせて絞りの効果をコントロールできるようにしています。また、絞りの効果をできるだけ広い輝度範囲内で活かせるように、全開時のシャッター速度を1/350秒にしています。また、F3.5、F5.6ではシャッター速度が1/350秒を越す輝度になると超自動露出が働いてシャッターの開口径が小さくなり、さらに高輝度でも適正露出が得られます。

●超自動露出が働くと、設定した絞りよりシャッターの開口径が小さくなり、思い通りの絞り効果が得られない場合があります。また、絞りが円形ではなくなります。

●超自動露出が働くとシャッター速度表示の500が遅く(2Hz)点滅してお知らせします。

主な性能

カメラタイプ	35mmレンズシャッター式オートフォーカスカメラ
レンズ	ミノルタGロッコールレンズ　28mmF3.5
構成	5群5枚
オートフォーカス	
方式	外光パッシブ方式（補助光付き）、フォーカスロック可能
撮影距離	0.45m～∞
最大撮影倍率	約1/13.5倍
ステップ数	約455ステップ
マニュアルフォーカス	0.45m～∞、22ステップ
AF補助光	
方式	近赤外線LEDによる低輝度自動発光
作動可能範囲	0.45m～2.8m
露出制御	
制御方式	絞り優先AE（F3.5、F5.6時高輝度側超自動露出付き）
マニュアル絞り	F3.5、F5.6、F8、F16
測光方式	外部中央重点測光/スポット測光
測光素子	2分割SPC（シリコンフォトセル）
制御範囲	中央重点測光時EV1.5～17（F3.5、4秒～F13.5、1/750秒） スポット測光時EV2.5～17（F3.5、2秒～F13.5、1/750秒）
フイルム感度	自動設定（ISO25～3200、1/3EVステップ） マニュアル設定（ISO6～6400、1/3EVステップ） DXコードのないフイルムはISO100に設定

露出補正	±4EV（1/2EVステップ）
フイルム給送	
フイルム装填	オートローディング（裏蓋閉にて1コマ目まで自動送り）
巻き戻し	オートリターン、途中巻き戻し可能
撮影可能本数	約13本(24枚撮りフイルム、フラッシュ使用率50%)
フラッシュ	
方式	内蔵固定式
発光制御	フラッシュマチック方式
フラッシュモード	発光禁止、強制発光、夜景ポートレートの3モード ランプによる赤目軽減機能選択可能
撮影可能距離範囲	0.45〜2.0m（ガイドナンバー7、ISO100.m）
フラッシュ充電時間	約5秒
ファインダー	
形式	実像式ファインダー
視野率	85%以上（3mの被写体に対して）
倍率	0.4倍（3mの被写体に対して）
視度	-1ディオプトリー（3mの被写体に対して） 視度調整内蔵（-2.5〜1.0ディオプトリー）
セルフタイマー	
作動時間	10秒または2秒（途中解除可能）、作動中はランプの点滅で告知
電源	3Vリチウム電池（CR123AまたはDL123A） 1個
大きさ・重さ	99（幅）x 59（高さ）x 29.5（奥行き）mm ・185g（電池別）

ミノルタ株式会社

フォトサポートセンター

弊社製品のカメラ、交換レンズ、デジタルカメラ、フィルムスキャナ、露出計など写真や画像に関わる製品の機能、使い方、撮影方法などのお問い合わせをお受けいたします。

ナビダイヤル　0570-007111

ナビダイヤルは、お客様が日本全国どこからかけても市内通話料金で通話していただけるシステムです。

TEL　03-3356-9111（携帯電話・PHS等をご使用の場合はこちらをご利用ください。）
FAX　03-3356-6303
受付時間　10:00～12:00、13:00～17:00（土・日・祝日定休）

ホームページでも弊社製品に関する情報を提供しております。 http://www.photo.minolta.co.jp/

9223-2423-11 P-H208